

## 13 おためし地域おこし協力隊

---

---

### 実施概要

- 【実施時期】 R4.10
- 【実施期間】 2泊3日
- 【参加人数】 1人
- 【実施場所】 石狩市役所厚田支所（ほか地域一円）
- 【主な活動内容】
  - 自治体職員から制度や活動内容のレクチャー
  - 地域おこし協力隊（OB含）や地域住民との懇談
  - 居住環境や活動内容に関連する施設、地域等の見学

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

地域住民で組織している「地域おこし協力隊制度検討委員会」において、応募が年々減っている状況を解消するための一手法として、実施することとしたもの。

イベントではなく、お互いが事前に諸々を確認する機会とするため、居住環境等の見学や参加者の希望に合わせて、2泊3日以内で、一人ひとりのプログラムを組んでいる。

### 実施による効果・メリット

- 活動開始後における「ミスマッチ」の解消  
→ 面接一発で判断する危険性の提言
- 希望者が応募を判断するための材料としての事前「現地」視察  
→ 特に冬季間の厳しさがあるため、地域の方々から事前に生活のアドバイスも受けられる。

### 問合せ先

【担当課の連絡先】  
（所属）石狩市厚田支所地域振興課  
（メールアドレス）a-chiikis@city.ishikari.Hokkaido.jp  
（電話番号）0133-78-2012

【プログラムの案内など】  
特になし

### プログラムの内容

#### ● 1日目：例

- 市職員との顔合わせ、あいさつ
- 担当職員から制度と活動内容の説明
- 地域おこし協力隊との懇談



#### ● 2日目：例

- 居住環境等の確認
- 地域住民と懇談
- 活動内容に関連する場所等の見学
- 地域おこし協力隊の活動体験



#### ● 3日目：例

- 地域おこし協力隊（OB）との懇談
- 活動内容に関連する場所等の見学
- 地域資源（観光地等）の見学



・  
・

### 実施概要

【実施時期】 7月、12月（募集時期に合わせて）

【実施期間】 2泊3日

【参加人数】 3人（うちオンライン1名）

【実施場所】 ニセコ中央倉庫群

【主な活動内容】

ニセコ町の地域おこし協力隊の活動やニセコ町での生活を体験できる機会を提供する。

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

ニセコ町では、年度当初に赴任する前期と、年度途中に赴任する後期の二回に分けて協力隊を募集している。この募集時期と募集期間に合わせて、おためし協力隊を実施しており、応募PRに繋げている。

### 実施による効果・メリット

ニセコ町の地域おこし協力隊は、役場や観光協会、道の駅など町内の様々な配属先で活動しているという特徴があり、各隊員によってその活動内容は異なります。そこで、現役隊員や協力隊OB/OG、役場担当者から事前に説明を受けることや、実際の活動を体験してもらうことで、ミスマッチを防ぐ効果があった。また、協力隊を受入れる配属先との理解・体制づくりやPRにも取り組むことができた。

### 問合せ先

【担当課の連絡先】

（所属）企画環境課

（メールアドレス）jichi@town.niseko.lg.jp

（電話番号）0136-44-2121

【プログラムの案内など】

<https://niseko-iju.com/otameshi-kyoryokutai>

### プログラムの内容

#### ● 1日目：ニセコ中央倉庫群

- 13:00～ 制度の説明（相談員）
- 13:30～ 卒業後の話（OB隊員）
- 14:00～ ニセコの観光or農業について（講師）
- 15:30～ 町内見学（相談員・現役隊員）  
生活体験
- 17:00～ 解散

#### ● 2日目：各希望配属先 活動体験

- 09:00～ 希望配属先訪問・説明
- 10:00～ 仕事見学・体験（配属先からPR）
- 12:00～ 昼食（町内飲食店）
- 13:30～ 第2希望配属先訪問・説明
- 14:30～ 仕事見学・体験（配属先からPR）
- 16:30～ 体験終了、反省会
- 17:30～ 解散、関係者とお食事会（町内飲食店）

#### ● 3日目：ニセコ中央倉庫群

- 09:00～ 地域おこし協力隊に求めるもの（役場）
- 10:00～ フリートーク（現役隊員・役場）
- 12:00～ 解散



### 実施概要

- 【実施時期】 R4.8
- 【実施期間】 2泊3日
- 【参加人数】 3人
- 【実施場所】 鷹栖町内
- 【主な活動内容】

自然公園「パレットヒルズ」の運営業務  
公園全体のマネジメント、利用促進に向けた企画運営  
体験プログラム開発、管理運営

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

数年前までは、書類審査（1次審査）と面接審査（2次）で採用を決定していたが、町と職員とのミスマッチが生じ、3年任期満了となることなく早期退職した事案があった。少しでも応募者と地域がともに理解し合う機会を設けることでミスマッチを防ぐ狙いがある。事業を委託し、行政目線ではない幅広い周知を行っている。

### 実施による効果・メリット

応募者側は、地域の課題を自身で感じることが出来ることと自身の活動イメージを現実に落とし込むことができた。  
受入れ側も応募者の人柄や立ち振る舞いなど、書類や短時間の面接では、測れない部分を事前に把握することができた。

### 問合せ先

- 【担当課の連絡先】  
(所属) 総務企画課地域振興係  
(メールアドレス) kikaku@town.takasu.lg.jp  
(電話番号) 0166-87-2111

- 【プログラムの案内など】  
(HP) <https://next-takasu.com>

### プログラムの内容

#### ● 1日目：町内案内

行政関係者と顔合わせ後、町内を案内。  
夜は担当部署職員及び現役職員との交流会。



#### ● 2日目：活動のフィールド紹介と受入団体との意見交換

ミッション型で活動するうえで関りのできる関係者や、指定管理団体と意見交換を実施。



#### ● 3日目：町職員や現役協力隊との意見交換

現役職員との面談・質疑を実施、解散。



### 実施概要

【実施時期】 R4.9. 6～R4.9. 8

【実施期間】 2泊3日

【参加人数】 1人

【実施場所】 剣淵町内

【主な活動内容】

採用後の勤務先をメインに、元・現地域おこし協力隊や住民との意見交換、基幹産業である農業体験といった、積極的に地域と関わるプログラム内容とし実施。

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

元地域おこし協力隊からの「おためし地域おこし協力隊」制度の導入について強く要望があったことを契機として、協力隊募集にあたりミスマッチを未然に防ぐためにも実施にいたった。

### 実施による効果・メリット

採用後のイメージを応募者、採用者側のどちらも持つことができる。事前に人となりを知ることで、応募者の求めていることや、やりたいことを聞き出すことができ、ミスマッチを防ぐためのプロセスを踏めたと感じる。履歴書上ではわからない資格の活かし方や、今後の活動展開が早い段階で見えたこともメリットと感じる。

### 問合せ先

【担当課の連絡先】

(所属) 総務課企画財務広報グループ

(メールアドレス) kikaku@town.kembuchi.lg.jp

(電話番号) 0165-26-9021

【プログラムの案内など】

<http://www.town.kembuchi.Hokkaido.jp/>

### プログラムの内容

#### ● 1日目：ミーティング等

庁舎内でオリエンテーション後、町内案内。現地域おこし協力隊の空き店舗を利用したレストランにて懇談と昼食。午後からはトマトの収穫、芋掘りなどの農業体験を1時間半ほど行い、夜は農業体験受入先、商工会女性部、地域おこし協力隊担当との交流会を行う。



#### ● 2日目：勤務体験

実際の勤務先となる空き店舗を利用したカフェ「ノアール」で勤務体験。仕込みから片付けまで一通りの作業を1日行う。夜はカフェの母体となるNPO法人、元・現地域おこし協力隊との意見交換会及び懇談会を実施。



#### ● 3日目：面接

最終日は庁舎内で町長、副町長、総務課長、地域おこし協力隊担当職員で面接を行う。その後解散。

・  
・



### 実施概要

- 【実施時期】 R4.10.8～ R4.10.10
- 【実施期間】 2泊3日
- 【参加人数】 7人
- 【実施場所】 農業関連施設、地元酪農家畜舎など
- 【主な活動内容】
  - ・ 農業関連施設の作業現場や、農作業現場を見学
  - ・ 佐呂間町に移住し、就農した地元酪農家との意見交換 など

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

本町の基幹産業である農業は、人口減少に伴う担い手・働き手不足が深刻な状況にあり、新規就農に対する様々な施策はあるものの、就農する方がいない状況となっている。

このような中、新たな取組として、就農に意欲のある地域おこし協力隊員を募集し、働きながら農業を学んでいただき、その就農をサポートすることを目的とし、本事業を実施することとした。

### 実施による効果・メリット

本町の農業やその支援策の認知度を深化させることができるとともに、参加者の横のつながりによる情報の拡散にも期待できる。

また、本町に初めて来る方も多く参加しており、実際に見聞きする情報が重要だと再認識している方もいた。

### 問合せ先

- 【担当課の連絡先】  
(所属) 企画財政課企画係  
(メールアドレス) kikaku@town.saroma.hokkaido.jp  
(電話番号) 01587-2-1214

### プログラムの内容

#### ● 1日目：オリエンテーション、交流会

- ・ 事業行程などの確認と自己紹介
- ・ 町長、農協参事から歓迎の挨拶
- ・ 佐呂間町の概要、農業概要を説明
- ・ 市街地を徒歩にて見学
- ・ 関係者との交流会を実施



#### ● 2日目：地域体験

- ・ 町、農協が運営している農業施設見学
- ・ 佐呂間町に移住し、就農した酪農家との意見交換会
- ・ ワークショップ（今日の気付き）



#### ● 3日目：地域体験、ワークショップ

- ・ かぼちゃ工場を見学
- ・ シソ釜での蒸留作業を見学
- ・ ワークショップ（まとめ）



### 実施概要

【実施時期】 R4.8.20～ R4.8.22

【実施期間】 2泊3日

【参加人数】 6人

【実施場所】 佐原町並み交流館等

【主な活動内容】

地域おこし協力隊に関心がある大学生および大学院生を対象として、農業と観光という2軸から香取市の魅力を体感することができるツアーとワークショップを実施。

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

- ・地域おこし協力隊募集におけるミスマッチや応募人数の不足、および行政としての若年層の就業人口の減少という課題を解決すべく、学生を対象としたおためし地域おこし協力隊ツアーを行った。
- ・地域おこし協力隊の隊員が企画書を作成し、香取市企画政策課と調整。企画が固まり次第関係各者と調整。

### 実施による効果・メリット

- ・次世代の地域おこし協力隊の発掘。  
→地域おこしの募集では出会うことができなかった若年層の候補者の囲い込みを行うことができた。
- ・ミスマッチの解消  
→数日のプログラムを通して応募者の人となりや能力等を見ることで、地域おこしを受け入れる側とのミスマッチを削減することにつながった。

### 問合せ先

【担当課の連絡先】

(所属) 香取市企画政策課

(メールアドレス) seisaku@city.katori.lg.jp

(電話番号) 0478-50-1206

【プログラムの案内など】

[https://www.city.katori.lg.jp/government/plan\\_policy/tiikiokosi/otameshi\\_chiiki.html](https://www.city.katori.lg.jp/government/plan_policy/tiikiokosi/otameshi_chiiki.html)

### プログラムの内容

#### ● 1日目：オリエンテーションと農家ツアー

本ツアーの目的と3日間の流れを伝達。共通認識を持ってもらったうえで農家ツアーを実施。

家族経営や農業生産法人といった様々な規模の生産者を見てもらい意見交換をすることで、それぞれの課題や強みを理解してもらうことを目指した。



#### ● 2日目：佐原の町並み散策

香取市のもう一つの魅力である観光という視点から、佐原の町並みの形成に関する歴史や周辺の観光資源を散策。東京から好立地に位置するが観光地としての特徴を伝達。



#### ● 3日目：基調講演およびプレゼンテーション

香取市を代表する経営者を招致し講演。市内におけるビジネスの成功事例をインプット。

その後「あなたが地域おこし協力隊になったら何をしたいか。」というテーマで参加者によるプレゼンテーションを実施。



### 実施概要

【実施時期】 R4.10.2～ R4.10.4

【実施期間】 2泊3日

【参加人数】 1人

【実施場所】 市川三郷町内（農泊ちかはぎ空の家）

【主な活動内容】

今回体験した隊員希望者は、農泊ちかはぎ空の家を希望する千葉県在住の方。ご家族と共に移住するにあたり、田舎暮らしでの子育ての不安の解消や市川三郷町を実際に滞在し体験してもらいたく実施しました。

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

かねてより隊員の採用前にお試し移住体験を実施したかったが、町内に宿泊できるところが少なく実現できなかった。

今年度、農泊施設から隊員受け入れ希望があり、おためし地域おこし協力隊事業の相談をしたところ快諾いただき実現できた。

体験プログラムは、隊員希望者、受入機関の活動に沿った内容で毎回組んで実施している。

### 実施による効果・メリット

採用過程で実施することで、採用後のアンマッチの解消。実際に来町してもらい、事業の内容や関係者の様子、町の様子など、採用後の活動を具体的にイメージしてもらう事ができた。

### 問合せ先

【担当課の連絡先】

（所属）政策推進課政策推進係

（メールアドレス） [seisaku@town.ichikawamisato.lg.jp](mailto:seisaku@town.ichikawamisato.lg.jp)

（電話番号） 055-272-1103

### プログラムの内容

#### ● 1日目

3日間の体験プログラムのレクチャー。活動予定エリアの散策。夜は地元の方々との交流会。

参加者



交流会

#### ● 2日目

入居予定の住宅の見学。子供が入園予定の幼稚園の見学。地場産業の和紙工場、印章資料館の見学。夜は活動拠点の農泊施設での夕食。

住宅見学



#### ● 3日目

行政関係者と顔合わせ。地元で農産物を加工している所の見学。意見交換。

夕食



地場産業見学





### 実施概要

- 【実施時期】 R4.6.21(火)～23(木)
- 【実施期間】 2泊3日
- 【参加人数】 1人
- 【実施場所】 坂本コミュニティセンター ほか
- 【主な活動内容】  
町内の被災状況や名勝の視察、特産品作り作業工程の体験など

### 実施に至った経緯・事務の流れなど

八代市坂本町は、令和2年7月豪雨により甚大な被害を受けた。災害からの復興に関し、住民から地域おこし協力隊制度の導入要請があり、隊員の募集を行った。  
隊員を採用する前に、あらかじめ坂本町がどんな地域であるのか知る必要があるため、「おためし地域おこし協力隊」事業として2泊3日の日程で実施した。

### 実施による効果・メリット

隊員として受入る前に、実際に接することによって応募者の人となりを知ることができた。

### 問合せ先

- 【担当課の連絡先】  
(所属) 総務企画部坂本支所地域振興課  
(メールアドレス) sa-chiiki@city.yatsushiro.lg.jp  
(電話番号) 0965-45-2211

### プログラムの内容

#### ● 1日目：町内被災地現状視察

中谷橋→くま川ワイワイパーク→坂本支所→藤本発電所→荒瀬ダム跡地→鶴之湯旅館→三坂公民館→中津道阿蘇神社→食処「さかもと鮎やな」にて交流会



#### ● 2日目：町内の名勝視察及び体験

生活研究グループ鮎帰会→日光の棚田→油谷ダム→走水の滝→温泉センタークレオン→鶴喰なの花村→桜の雫→坂本コミセン（ミーティング）



#### ● 3日目：視察希望地訪問・面接

CATVセンター→中谷青少年センター→坂本コミセン→面接（坂本コミセン）

